

科目名		人間関係とコミュニケーション		授業の種類	講義	授業担当者	(実務経験有り)	東原 由佳・鎌田綱	科目名	人間関係とコミュニケーション		授業の種類	講義	授業担当者	(実務経験有り)	東原 由佳・鎌田綱			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		1年 前期		必修・選択	必修		授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		2年 前期		必修・選択	必修			
30	60時間(4単位)								30	60時間(4単位)									
目的・ねらい	自己理解や他者理解を深めることにより、介護実践のために必要な人間の理解を習得する。また人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について理解する。介護実践においてチームマネジメントの必要性を理解する。							目的・ねらい	自己理解や他者理解を深めることにより、介護実践のために必要な人間の理解を習得する。また人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について理解する。介護実践においてチームマネジメントの必要性を理解する。										
内容	1. 自己理解や他者理解を深める。 2. 人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を習得する。 3. チームマネジメントの基礎的知識を理解しチームで働くための能力を身につける。							内容	1. 自己理解や他者理解を深める。 2. 人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を習得する。 3. チームマネジメントの基礎的知識を理解しチームで働くための能力を身につける。										
到達目標	1. 自己を見つめることおよび、他者理解の重要性と具体的方法を理解できる。 2. 人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を身につけて実践ができる。 3. チームマネジメントの基礎的知識を理解しチームで働くための能力を身につける。							到達目標	1. 自己を見つめることおよび、他者理解の重要性と具体的方法を理解できる。 2. 人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を身につけて実践ができる。 3. チームマネジメントの基礎的知識を理解しチームで働くための能力を身につける。										
授業計画	コマ数	授業内容																	
	1	人間と人間関係		・人間らしさのはじまり		・自分と他者の理解		授業計画	16	組織におけるコミュニケーション		・組織の条件とコミュニケーションの特徴							
	2	人間と人間関係		・自分と他者の理解					17	組織におけるコミュニケーション		・組織における情報の流れ							
	3	人間と人間関係		・発達心理学からみた人間関係		・社会心理学からみた人間関係						18	組織におけるコミュニケーション		・組織において求められるコミュニケーション		・演習		
	4	人間と人間関係		・社会心理学からみた人間関係					19	介護実践におけるチームマネジメントの意義		・介護現場で求められるチームマネジメント							
	5	人間と人間関係		・人間関係とストレス					20	介護実践におけるチームマネジメントの意義		・ヒューマンサービスとしての介護サービス							
	6	対人関係におけるコミュニケーション		・コミュニケーションの概念					21	介護実践におけるチームマネジメントの意義		・介護現場で求められるチームマネジメント							
	7	対人関係におけるコミュニケーション		・コミュニケーションの基本構造					22	介護実践におけるチームマネジメントの意義		・介護実践におけるチームマネジメントの取り組み							
	8	対人関係におけるコミュニケーション		・コミュニケーションの手段					23	ケアを展開するためのチームマネジメント		・ケアを展開するために必要なチームとその取り組み							
	9	対人関係におけるコミュニケーション		・演習		・グループワーク						24	ケアを展開するためのチームマネジメント		・演習				
	10	対人援助関係とコミュニケーション		・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション					25	ケアを展開するためのチームマネジメント		・チームでケアを展開するためのマネジメント							
	11	対人援助関係とコミュニケーション		・対人援助における基本的態度					26	ケアを展開するためのチームマネジメント		・演習							
	12	対人援助関係とコミュニケーション		・演習		・グループワーク						27	人材育成・自己研鑽のたえのチームマネジメント		・介護福祉職のキャリアと求められる実践力		専門職としてのキャリアデザイン		
	13	対人援助関係とコミュニケーション		・援助的認権関係の形成とバイスティックの7つの原則					28	組織の目標達成のためのチームマネジメント		・介護サービスを支える組織の構造、機能、役割							
	14	対人援助関係とコミュニケーション		・演習		・グループワーク						29	組織の目標達成のためのチームマネジメント		・介護サービスを支える組織の管理				
15	まとめ・試験																		
教科書	最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 中央法規出版							教科書	最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 中央法規出版										
評価方法	定期試験・授業時の状況・課題提出の状況を総合的に評価する							評価方法	定期試験・授業時の状況・課題提出の状況を総合的に評価する										

科目名	国家試験対策（人間と社会）	授業の種類 講義	授業担当者 （実務経験有り） 鎌田 綱 ・ 東原 由佳
授業の回数 15	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
目的・ねらい	介護福祉士国家試験の「人間と社会」領域において、試験対策講義及び過去問題、模擬問題を中心とした演習を行い、合格に達する知識を身につける。		
内容	国家試験において、特に頻出する分野を丁寧に解説する。そして、過去問題、模擬問題を実施し、間違えやすいポイントについて説明する。		
到達目標	国家試験での合格ライン到達に必要なとされる知識を修得する。		
授業計画	コマ数	授業内容	
	1	対策講義（人間の尊厳と自立）	
	2	対策講義（人間関係とコミュニケーション）	
	3	対策講義（介護実践におけるチームマネジメント）	
	4	対策講義（社会と生活のしくみ）	
	5	対策講義（地域共生社会の実現に向けた制度や施策）	
	6	対策講義（社会保障制度）	
	7	対策講義（高齢者保健福祉と介護保険制度）	
	8	対策講義（障害者保健福祉と障害者総合支援制度）	
	9	対策講義（介護実践に関連する諸制度）	
	10	過去問題演習①	
	11	過去問題演習②	
	12	過去問題演習③	
	13	模擬問題演習①	
	14	模擬問題演習②	
15	模擬問題演習③		
教科書	介護福祉士国家試験受験ワークブック・過去問題集等		
評価方法	受講への取り組み、姿勢により評価		

科目名 レクリエーション概論				授業の種類 講義	授業担当者 (実務経験有り) 平田 朋美	科目名 介護の図画・工作				授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 平田 朋美
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 選択必修			授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)(1年前期8コマ、1年後期7コマ)	配当学年・時期 1年 前期・1年 後期	必修・選択 選択		
目的・ねらい	レクリエーションとは何かを理解し、心を元気にする支援の方法を学ぶ。				目的・ねらい	施設の利用者であろうと、居宅生活者であろうと、生活の中にほっとする空間や安らぎの空間をもつことは、生活のメリハリだけでなく潤いともなり大切である。空間を装飾する方法を具体的に理解・応用できる能力を養う。					
内容	信頼関係づくりの理論 良好な集団作りの理論 自主的・主体的に楽しむ力を高める理論				内容	1.装飾の意義と方法 2.行事に応じた装飾 3.日常生活の中での装飾					
到達目標	信頼関係づくりの方法を理解する 良好な集団作りの方法を理解する 自主的・主体的に楽しむ力を高める方法を理解する				到達目標	1.装飾の効果の理解と具体的な装飾ができる。(さまざまな材料と工作道具の使用ができる。) 2.行事に応じた装飾を具体的にできる。 3.日常生活の中での装飾を具体的にできる。					
授業計画	コマ数	授業内容			授業計画	コマ数	授業内容				
	1	ガイダンス				1	ペーパーブロック①				
	2	レクリエーション支援とは				2	ペーパーブロック②				
	3	レクリエーション支援とは				3	牛乳パックを使用した小物入れ作成①				
	4	楽しさと心の元気づくりの課題				4	牛乳パックを使用した小物入れ作成②				
	5	ライフステージごとの課題				5	写真立ての作成				
	6	コミュニケーションと信頼関係作り				6	けしごむはんこの作成				
	7	アイスプレイング・良好な集団作り				7	干支の色紙飾り				
	8	ハードル設定・CSSプロセス				8	介護の日のイベント、ノベルティ作成①				
	9	子供レクモデルプログラム				9	介護の日のイベント、ノベルティ作成②				
	10	福祉レクリエーション				10	介護の日のイベント、ノベルティ作成③				
	11	A-PIEプロセス・プログラムの立案方法				11	介護の日のイベント、ノベルティ作成④				
	12	プログラムの立案				12	介護の日のイベント、ノベルティ作成⑤				
	13	支援の試行・評価・改善				13	介護の日のイベント、ノベルティ作成⑥				
	14	支援の試行・評価・改善				14	季節の飾り作成①				
15	試験			15	季節の飾り作成②						
教科書	日本レクリエーション協会「楽しさをとおした心の元気づくり」				教科書						
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、筆記試験などによる総合評価				評価方法	提出物及び授業態度により評価する					

科目名		高年齢者の運動支援	授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 東原 由佳	科目名	手話	授業の種類 講義	授業担当者(実務経験有り) 菊川 優加
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 選択		授業の回数 1回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
目的・ねらい	高年齢者の身体的心理的特性を理解する 高年齢者の日常生活動作に合わせた運動支援の方法を学ぶ				目的・ねらい	介護現場において聴覚障害とのコミュニケーションは、とても重要である。聴覚障害者が安心して適切なサービスを受けられるために聴覚障害や聴覚障害者を理解し、手話で簡単な会話が出来るようにする。		
内容	高年齢者の身体的心理的特性 介護予防・認知症予防の運動支援				内容	講義：聴覚障害の基礎知識・手話の基礎知識・聴覚障害者の生活 実技：表現基礎練習・自己表現・会話の基礎練習		
到達目標	介護予防運動を理解し、支援が出来る 認知症予防運動を理解し、支援が出来る				到達目標	簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができる。 聴覚障害や聴覚障害者の生活等についての理解と認識を深める。		
授業計画	コマ数	授業内容			コマ数	授業内容		
	1	オリエンテーション 高年齢者の身体特性(サルコペニア・フレイル・ロコモ) 健康寿命の延伸			1	授業のガイダンス 手話の基礎知識 挨拶・指文字(自分の名前を指文字で表現することができる)		
	2	各種アクティビティ 支援演習			2 ※	あいさつをしてみましょう		
	3	各種アクティビティ 県民スポレク祭			3 ※	自己紹介をしてみましょう		
	4	日常生活動作運動支援 ガイダンス			4 ※	家族を紹介してみましょう		
	5	日常生活動作運動支援①			5 ※	趣味について話してみましょう		
	6	日常生活動作運動支援②			6 ※	聴覚障害の基礎知識 疑似体験を通して聞こえないことを考えましょう		
	7	日常生活動作運動支援③			7 ※	料理や買い物について話してみましょう		
	8	日常生活動作運動支援④			8 ※	体調や病気について話してみましょう		
	9	日常生活動作運動支援⑤			9 ※	旅行について話してみましょう		
	10	日常生活動作運動支援⑥			10 ※	学校での出来事などを話してみましょう		
	11	日常生活動作運動支援⑦			11 ※	仕事について話してみましょう		
	12	日常生活動作運動支援⑧			12 ※	天候などについて話してみましょう		
	13	日常生活動作運動支援⑨			13 ※	ろう者と話してみましょう		
	14	日常生活動作運動支援⑩			14 ※	まとめ 会話の練習をしましょう		
	15	まとめ・試験			15 ※	期末試験		
教科書	資料プリント			教科書	「DVDで楽しく学べる はじめて出会う手話」 全日本ろうあ連盟			
評価方法	出席、授業態度、提出物、実技試験、記述試験による総合評価			評価方法	実技試験【読み取り(単語・短文)・手話表現(スピーチ・課題表現)】を行う			

科目名 介護の基本 I		授業の種類 講義	授業担当者 (実務経験有り) 中岡 勉・鎌田 綱	科目名 介護の基本 I		授業の種類 講義	授業担当者 (実務経験有り) 中岡 勉・鎌田 綱
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修	授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
目的・ねらい	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい視点を加えた介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の視点から掘え理解する。 介護における安全やチームケア等について理解する。			目的・ねらい	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい視点を加えた介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の視点から掘え理解する。 介護における安全やチームケア等について理解する。		
内容	介護の意義と役割及び専門性(介護の歴史や関連法規を通して) 介護実践の基本的姿勢(ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して) 尊厳を守る介護、自立に向けた介護			内容	介護の意義と役割及び専門性(介護の歴史や関連法規を通して) 介護実践の基本的姿勢(ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して) 尊厳を守る介護、自立に向けた介護		
到達目標	安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現ができる 危機管理や関係職種間の連携ができる 介護の基本的姿勢についてのノーマライゼーション、ICF、介護の倫理が理解できる			到達目標	安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現ができる 危機管理や関係職種間の連携ができる 介護の基本的姿勢についてのノーマライゼーション、ICF、介護の倫理が理解できる		
授業計画	コマ数	授業内容		コマ数	授業内容		
	1	介護福祉とは 1.介護の成り立ち①		16	高齢者の歩んだ時代をまとめる④		
	2	介護福祉とは 1.介護の成り立ち②		17	高齢者の歩んだ時代をまとめる⑤		
	3	介護福祉とは 1.介護の成り立ち③		18	高齢者の歩んだ時代をまとめる⑥		
	4	介護福祉とは 2.介護の概念の変遷①		19	高齢者の歩んだ時代をまとめる⑦		
	5	介護福祉とは 2.介護の概念の変遷②		20	高齢者の歩んだ時代をまとめる⑧		
	6	介護福祉とは 2.介護の概念の変遷③		21	高齢者の歩んだ時代：発表準備		
	7	介護福祉とは 3.介護福祉の基本理念①		22	高齢者の歩んだ時代：発表		
	8	介護福祉とは 3.介護福祉の基本理念②		23	介護福祉を必要とする人の理解 3.「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解		
	9	介護福祉とは 3.介護福祉の基本理念③		24	介護福祉を必要とする人の理解 4.生活のしづらさについて考える		
	10	介護福祉を必要とする人の理解 1.私たちの生活の理解(生活とは何か、生活にとって大切な要素、生活の特性)		25	自立支援に向けた介護福祉のあり方 自立支援の考え方 自立支援、エンパワメント		
	11	介護福祉を必要とする人の理解 2.介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること		26	自立支援に向けた介護福祉のあり方 自立支援とICF(国際生活機能分類)の考え方		
	12	介護福祉を必要とする人の理解 2.介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること(高齢者、障害者)		27	ICFの考え方 1.介護におけるICFのとらえ方		
	13	高齢者の歩んだ時代をまとめる①		28	自立支援とリハビリテーション①		
	14	高齢者の歩んだ時代をまとめる②		29	自立支援と介護予防		
15	高齢者の歩んだ時代をまとめる③		30	まとめ			
教科書	新・介護福祉士養成講座3・4 介護の基本I・II 中央法規			教科書	新・介護福祉士養成講座3・4 介護の基本I・II 中央法規		
評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題、発表内容等にて評価する			評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題、発表内容等にて評価する		

科目名		介護の基本Ⅱ		授業の種類	講義	授業担当者	(実務経験有り)	喜岡 淳	科目名	介護の基本Ⅱ		授業の種類	講義	授業担当者	(実務経験有り)	東原 由佳	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択					授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択				
3回	60時間(4単位)	1年・後期		必修		必修			30	60時間(4単位)	1年 後期		必修		必修		
目的・ねらい	人権感覚をみがき、人を大切にする価値観と行動態度を身につける。							目的・ねらい	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい視点を加えた介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の視点から捉え理解する。 介護における安全やチームケア等について理解する。								
内容	障害者や高齢者などの人権問題から同和問題など幅広い人権問題を取り上げ、講義やフィールドワークなど多彩な形態で授業を実施する。							内容	介護の意義と役割及び専門性(介護の歴史や関連法規を通して) 介護実践の基本的姿勢(ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して) 尊厳を守る介護、自立に向けた介護								
到達目標	人権問題への理解を深め、人権尊重の知識と実践が一致する生活態度を身につける。							到達目標	安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現ができる 危機管理や関係職種間の連携ができる 介護の基本的姿勢についてのノーマライゼーション、ICF、介護の倫理が理解できる								
授業計画	コマ数	授業内容							授業計画	コマ数	授業内容						
	1	介護と人権① ガイダンス								16	介護福祉士の役割と機能 ・介護福祉士の活動の場と役割 (地域包括ケアシステム①)						
	2	介護と人権② 介護福祉士と人権								17	介護福祉士の役割と機能 ・介護福祉士の活動の場と役割 (地域包括ケアシステム②)						
	3	高齢者の人権								18	介護福祉士の役割と機能 ・介護福祉士の活動の場と役割 (介護予防、医療的ケア)						
	4	障害者の人権								19	介護福祉士の役割と機能 ・介護福祉士の活動の場と役割 (災害時の支援)						
	5	誰もが使いやすい建物の見学(JR高松駅)								20	介護福祉士の役割と機能 ・社会福祉士及び介護福祉士法						
	6	ハンセン病と人権								21	介護福祉士の役割と機能 ・介護福祉士養成カリキュラムの変換						
	7	高齢者の疑似体験(香川県社会福祉総合センター)								22	介護福祉士の役割と機能 ・介護福祉士を支える団体						
	8	最新の介護機器・介護用具の見学(香川県社会福祉総合センター)								23	介護福祉士の倫理 ・介護実践における倫理						
	9	大島青松園フィールドワーク①(入所者や園職員が講義)								24	介護福祉士の倫理 ・日本介護福祉士倫理綱領						
	10	大島青松園フィールドワーク②(施設見学)								25	自立に向けた介護福祉のあり方 ・自立支援とリハビリテーション						
	11	同和問題								26	自立に向けた介護福祉のあり方 ・自立支援と介護予防						
	12	アイヌ問題など様々な人権問題								27	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ・生活を支えるフォーマルサービスとは						
	13	女性の人権								28	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ・生活を支えるインフォーマルサービスとは						
	14	子どもの人権								29	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ ・地域連携						
15	まとめ							30	まとめ・試験								
教科書	「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版 「改訂・人権問題の基礎」 特定非営利活動法人 香川人権研究所							教科書	最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版								
評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する							評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する								

科目名		介護の基本Ⅲ		授業の種類	授業担当者	(実務経験有り)		科目名	介護の基本Ⅲ		授業の種類	授業担当者	(実務経験有り)		
				講義	平田 朋美					講義		平田 朋美			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択				授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択			
30	60時間(4単位)	2年 前期		必修				30	60時間(4単位)	2年 後期		必修			
目的・ねらい	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい視点を加えた介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の視点から据え理解する。 介護における安全やチームケア等について理解する。						目的・ねらい 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい視点を加えた介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の視点から据え理解する。 介護における安全やチームケア等について理解する。								
内容	介護の意義と役割及び専門性(介護の歴史や関連法規を通して) 介護実践の基本的姿勢(ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して) 尊厳を守る介護、自立に向けた介護						内容 介護の意義と役割及び専門性(介護の歴史や関連法規を通して) 介護実践の基本的姿勢(ノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して) 尊厳を守る介護、自立に向けた介護								
到達目標	安全かつ安心できる介護や信頼における介護の実現ができる 危機管理や関係職種間の連携ができる 介護の基本的姿勢についてのノーマライゼーション、ICF、介護の倫理が理解できる						到達目標 安全かつ安心できる介護や信頼における介護の実現ができる 危機管理や関係職種間の連携ができる 介護の基本的姿勢についてのノーマライゼーション、ICF、介護の倫理が理解できる								
授業計画	コマ数	授業内容													
	1	介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護における安全の確保①													
	2	介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護における安全の確保②													
	3	介護における安全の確保とリスクマネジメント リスクマネジメントとは何か①													
	4	介護における安全の確保とリスクマネジメント リスクマネジメントとは何か②													
	5	介護における安全の確保とリスクマネジメント リスクマネジメントとは何か③													
	6	介護における安全の確保とリスクマネジメント 感染症対策①													
	7	介護における安全の確保とリスクマネジメント 感染症対策②													
	8	介護における安全の確保とリスクマネジメント 感染症対策③													
	9	協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性													
	10	協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力①													
	11	協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力②													
	12	協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能①													
	13	協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能②													
	14	協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際①													
15	協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際②														
授業計画	コマ数	授業内容													
	16	介護従事者の安全 健康管理の意義と目的													
	17	介護従事者の安全 こころの健康管理													
	18	介護従事者の安全 からだの健康管理													
	19	介護従事者の安全 労働環境の整備													
	20	災害時の対応 ・施設での対応													
	21	災害時の対応 ・一人暮らしの高齢者などへの対応													
	22	施設訪問の意義・目的													
	23	施設訪問の心構え、計画の立て方													
	24	施設訪問の準備①													
	25	施設訪問の準備②													
	26	施設訪問の準備③													
	27	施設訪問の準備④													
	28	施設訪問													
	29	振り返り(グループワーク)													
	30	試験													
教科書	最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版						教科書 最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版								
評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する						評価方法 筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する								

科目名		コミュニケーション技術Ⅰ	授業の種類 講義	授業担当者	(実務経験有り) 東原 由佳	科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 演習	授業担当者	(実務経験有り) 中岡 勉	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修	授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修	目的・ねらい	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 利用者や利用者家族、チームケアを実践するためのコミュニケーション能力を身につける。	目的・ねらい	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。
内容	介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解する。 利用者に関わる人々と利用者の関係を調整する能力を習得する。				内容	介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解する。 利用者に関わる人々と利用者の関係調整能力を習得する。					
到達目標	コミュニケーションの意義や技法を理解し、適切なコミュニケーションの実践ができる。 文章(記録・報告書など)を通して介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を習得する。 介護実践に必要なコミュニケーション能力を習得する。				到達目標	障害の程度や種別による生活支援の状況を把握し、適切なコミュニケーションの実践ができる。 文章(記録・報告書など)を通して介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を習得する。 介護におけるコミュニケーションの基本を習得する。					
授業計画	コマ数	授業内容				コマ数	授業内容				
	1	記録の技術 ・記録の意義、目的、種類				1	介護におけるチームのコミュニケーション チームのコミュニケーション				
	2	記録の技術 ・記録の書き方、演習				2	記録(1.介護における記録の意義と目的)				
	3	介護におけるコミュニケーションとは ・コミュニケーションの意義と目的				3	(2.記録の種類)				
	4	介護におけるコミュニケーションのとは ・介護におけるコミュニケーションの展開過程				4	(3.書き方と留意点)				
	5	介護におけるコミュニケーションの対象 ・コミュニケーションの果たす役割				5	(4.記録の活用)				
	6	介護におけるコミュニケーションの対象 ・介護福祉職の職務とコミュニケーション ・介護福祉職のコミュニケーション支援の対象				6	(5.情報の保護と管理) ITを活用した記録の意義と活用の留意点				
	7	援助関係とコミュニケーション ・援助関係の特徴 ・援助関係を構築するための原則				7	報告・連絡・相談 1.意義と目的 2.方法と留意点				
	8	援助関係とコミュニケーション ・介護における援助関係を意識したコミュニケーション				8	会議 1.意義と目的 2.種類 3.方法と留意点・プレゼンテーションの基本				
	9	コミュニケーション態度に関する基本技術①				9	実現でのコミュニケーション技法				
	10	コミュニケーション態度に関する基本技術②				10	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 (事例1・2・3)				
	11	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本①				11	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 (事例4・5・6)				
	12	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本②				12	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 (事例7・8・9)				
	13	目的別のコミュニケーション技術				13	利用者の特性に応じたコミュニケーション 1. コミュニケーション障害の理解 コミュニケーション障害とその原因				
	14	集団におけるコミュニケーション技術				14	利用者の特性に応じたコミュニケーション 2. コミュニケーション障害のある利用者への対応				
15	まとめ・試験				15	対応を考えるための視点・対応の基本					
教科書	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 中央法規出版				教科書	新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 中央法規					
評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する				評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する					

科目名		生活支援技術 I		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	科目名	生活支援技術 I		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	
授業の回数	30	時間数 (単位数)	60 時間 (2単位)		配当学年・時期	1年 前期		必修・選択	60 時間 (2単位)		配当学年・時期	1年 後期		必修・選択	
							必修							必修	
目的・ねらい	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。介護に関する住居のあり方、居住空間の基本等を習得する。</p>							目的・ねらい	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p>						
内容	<p>できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。 生活環境の変化において介護福祉の必要性と重要性を知る。</p>							内容	<p>できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。</p>						
到達目標	<p>利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。 自ら介護での居住環境の計画を提案出来るようにする。</p>							到達目標	<p>利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。</p>						
授業計画	コマ数	授業内容					授業計画	コマ数	授業内容						
	1	自立に向けた移動の介護①						16	居住環境の整備 住まいの役割と機能、家族と生活空間						
	2	自立に向けた移動の介護②						17	生活空間 人と空間						
	3	自立に向けた移動の介護 (演習 車いす介助)						18	生活空間 加齢と生活空間①						
	4	自立に向けた移動の介護 (演習 杖歩行の介助)						19	生活空間 加齢と生活空間②						
	5	自立に向けた移動の介護 (演習 スライディングボード)						20	快適な室内環境①						
	6	生活支援の理解 ・生活支援の基本的な考え方 (生活支援とは何か)						21	快適な室内環境②						
	7	生活支援の理解 ・生活支援の基本的な考え方 (ライフサイクルと生活の豊かさ、生活支援のポイント)						22	快適な室内環境②						
	8	生活支援の理解 ・生活支援と介護過程						23	住居環境の整備 安全で快適な生活の場づくり①						
	9	生活支援の理解 ・生活支援とチームアプローチ①						24	安全で快適な生活の場づくり②						
	10	生活支援の理解 ・生活支援とチームアプローチ②						25	安全で快適な生活の場づくり③						
	11	福祉用具の意義 ・生活における福祉用具の重要性						26	安全で快適な生活の場づくり④						
	12	福祉用具の意義 ・福祉用具の種類①						27	高齢者・障害者の住まい						
	13	福祉用具の意義 ・福祉用具の種類②						28	居住環境の整備における多職種との連携						
	14	福祉用具の意義 ・適切な福祉用具を選ぶための視点						29	災害時における生活支援①						
15	試験					30	災害時における生活支援② まとめ								
教科書	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規出版							教科書	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規出版						
評価方法	出席・筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する。9コマから15コマについては毎回、作図及び提出書類または小テストを行ない試験と合せて判断。							評価方法	筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する						

科目名		生活支援技術Ⅱ		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	平田 朋美	科目名	生活支援技術Ⅱ		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	平田 朋美	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択		1年 前期		必修	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択		1年 前期		必修
45	90時間 (3単位)								45	90時間 (3単位)							
目的・ねらい	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p>								目的・ねらい	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p>							
内容	<p>できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。</p>								内容	<p>できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。</p>							
到達目標	<p>利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。</p>								到達目標	<p>利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。</p>							
授業計画	コマ数	授業内容							授業計画	コマ数	授業内容						
	1	自立に向けた身じたくの介護 ・自立した身じたくとは								16	自立に向けた排泄の介護						
	2	自立に向けた身じたくの介護 ・自立に向けた身じたくの介護								17	自立に向けた排泄の介護						
	3	自立に向けた身じたくの介護 ・身じたくの介護における多職種との連携								18	自立に向けた排泄の介護 (演習: オムツ交換)						
	4	休息・睡眠の介護講義								19	自立に向けた排泄の介護 (演習: ポータブルトイレ)						
	5	休息・睡眠の介護 (安楽な体位・体位)								20	自立に向けた食事の介護						
	6	休息・睡眠の介護 (演習: ベッドメイキング)								21	自立に向けた食事の介護 自立に向けた身じたくの介護 (口腔ケア)						
	7	休息・睡眠の介護 (演習: ベッドメイキング)								22	自立に向けた食事の介護 (演習)						
	8	自立に向けた身じたくの介護 (衣服の着脱介助)								23	自立に向けた食事の介護 (演習)						
	9	自立に向けた身じたくの介護 (衣服の着脱介助)								24	人生の最終段階の意義と介護の役割						
	10	自立に向けた身じたくの介護 (演習 衣服の着脱介助)								25	人生の最終段階における介護						
	11	自立に向けた身じたくの介護 (演習 衣服の着脱介助)								26	事例に基づいた演習①						
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護								27	事例に基づいた演習②						
	13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護								28	実技試験						
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (演習)								29	実技試験						
15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (演習)							30	筆記試験								
教科書	最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版								教科書	最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版							
評価方法	出席・筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する								評価方法	出席・筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する							

科目名		生活支援技術Ⅱ	授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 平田 朋美	科目名	生活支援技術Ⅲ	授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 平田 朋美	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択		授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
45	90時間(3単位)	1年後期	必修		45	90時間(3単位)	1年後期	必修	
目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。				目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。			
内容	できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。				内容	できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。			
到達目標	利用者が生活の中で求めている幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。				到達目標	利用者が生活の中で求めている幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。			
授業計画	コマ数	授業内容			授業計画	コマ数	授業内容		
	31	レクリエーション 目的に沿ったアクティビティの選択①				1	利用者の状態・状況に応じた介護技術とは何か 視覚障害者に応じた介護・視覚障害者と生活の理解・家事支援と環境整備		
	32	目的に沿ったアクティビティの選択②				2	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	33	レクリエーション計画書・報告書の書き方				3	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	34	アクティビティの展開方法①				4	聴覚・言語障害に応じた介護 聴覚・言語障害者と生活の理解・家事支援と環境整備		
	35	アクティビティの展開方法②				5	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	36	アクティビティの展開				6	重複障害(盲ろう)に応じた介護 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	37	アクティビティの展開				7	知的障害に応じた介護 知的障害者と生活の理解・家事支援と環境整備		
	38	アクティビティの展開				8	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	39	アクティビティの展開				9	発達障害に応じた介護 発達障害のある人と生活の理解・家事支援と環境整備		
	40	アクティビティの展開				10	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	41	アクティビティの展開				11	運動機能障害に応じた介護 運動機能障害者のある人の生活の理解・家事支援と環境整備		
	42	アクティビティの展開				12	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
	43	アクティビティの展開の振り返り				13	精神障害に応じた介護 精神障害者と生活の理解・家事支援と環境整備		
	44	対象に合わせたレクワークアレンジ				14	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題		
45	県民スポーツレクリエーション祭 スタッフ参加			15	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携 演習課題				
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり(公益財団法人 日本レクリエーション協会)				教科書	新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版			
評価方法	筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する				評価方法	筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する			

科目名		生活支援技術Ⅲ		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	平田 朋美	科目名	生活支援技術Ⅲ		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	平田 朋美	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択		1年 後期		必修	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択		2年 前期		必修
45	90時間 (3単位)								45	90時間 (3単位)							
目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。							目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。								
内容	できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。							内容	できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。								
到達目標	利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。							到達目標	利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。								
授業計画	コマ数	授業内容						授業計画	コマ数	授業内容							
	16	心臓機能障害に応じた介護 心臓機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)							31	重複障害に応じた介護 重症心身障害に応じた介護・重症心身障害者と生活の理解・家事支援と環境整備							
	17	心臓機能障害のある人の支援の展開 演習問題							32	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携							
	18	呼吸機能障害に応じた介護 呼吸機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)							33	演習課題							
	19	呼吸機能障害のある人の支援の展開 演習問題							34	盲ろう (視覚障害、聴覚障害) に応じた介護 盲ろう (視覚障害、聴覚障害) と生活の介護・家事支援と環境整備							
	20	腎機能障害に応じた介護 腎臓機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)							35	介護技術の展開 他職種の役割と協働・連携							
	21	腎臓機能障害のある人の支援の展開 演習問題							36	演習課題							
	22	膀胱・直腸機能障害に応じた介護 膀胱・直腸機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)							37	まとめ・応用演習課題①							
	23	膀胱・直腸機能障害のある人の支援の展開 演習問題							38	まとめ・応用演習課題②							
	24	小腸機能障害に応じた介護 小腸機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)							39	まとめ・応用演習課題③							
	25	小腸機能障害のある人の支援の展開 演習問題							40	まとめ・応用演習課題④							
	26	HIVによる免疫機能障害に応じた介護 HIVによる免疫機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)							41	まとめ・応用演習課題⑤							
	27	HIVによる免疫機能障害のある人の支援の展開 演習問題							42	まとめ・応用演習課題⑥							
	28	肝臓機能障害に応じた介護 肝臓機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)、支援の展開、演習問題							43	まとめ・応用演習課題⑦							
29	高次脳機能障害に応じた介護 高次脳機能障害のある人の生活上の困りごと (観察の視点)						44	まとめ・応用演習課題⑧									
30	試験						45	まとめ・応用演習課題⑨									
教科書	最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規							教科書	新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規								
評価方法	筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する							評価方法	筆記試験・実技試験・受講態度・レポート課題等にて評価する								

科目名		授業の種類	授業担当者（実務経験有り）		科目名		授業の種類	授業担当者（実務経験有り）	
生活支援技術Ⅳ		演習	東原 由佳		家事生活支援技術Ⅰ		演習	笠井 真知子	
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択	授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択
15回	30時間（1単位）（2年前期7コマ・後期8コマ）	2年・前期、後期		必修	15回	30時間（1単位）	1年・前期		必修
目的・ねらい	福祉用具を活用して、潜在能力を引き出して日常生活の自立を促し、安全で快適な生活に繋げる知識や技術を習得する。 レクリエーション内容の計画・実施することで、対象者に合わせたレクリエーションの提供ができる能力を養う。				目的・ねらい	衣生活に関する様々な技能を実習を通して修得し、かつ、老人や障害者の家庭生活支援能力を養う。			
内容	できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状況を的確に把握する。 レクリエーション内容の計画・実施を通してレクリエーション活動を工夫して展開できる。 対象者に合わせた福祉用具の重要性を理解できる。				内容	エプロン、クッション等 製作、被服生活の基本知識			
到達目標	利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力を習得する。 個性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。				到達目標	衣生活に関する様々な技能の修得、老人や障害者の家庭生活支援能力の修得。			
授業計画	コマ数	授業内容							
	1	レクリエーション コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング①							
	2	レクリエーション コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング②							
	3	対象を想定したレクリエーション支援の体験①							
	4	対象を想定したレクリエーション支援の体験②							
	5	対象を想定したレクリエーション支援の体験③							
	6	対象を想定したレクリエーション支援の体験④							
	7	対象を想定したレクリエーション支援の体験⑤							
	8	対象を想定したレクリエーション支援の体験⑥							
	9	福祉用具を使用する意義 制作案作成							
	10	創作介護用具の作成①							
	11	創作介護用具の作成②							
	12	創作介護用具の作成③							
	13	創作介護用具の作成④							
	14	創作介護用具 発表リハーサル							
15	創作介護用具 発表								
授業計画	コマ数	授業内容							
	1	エプロン製作 1							
	2	エプロン製作 2							
	3	エプロン製作 3							
	4	エプロン製作 4							
	5	エプロン製作 5							
	6	巾着袋製作 1							
	7	巾着袋製作 2							
	8	クッション製作							
	9	クッション製作							
	10	実技テスト・筆記テスト							
	11	被服生活とは・被服の取り扱い							
	12	被服の素材（吸水実験・燃焼実験）							
	13	被服の選択・保管							
	14	被服と皮膚の衛生保持・管理							
	15	着やすく心地よい被服							
教科書	レクリエーション支援の基礎 日本レクリエーション協会				教科書	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版			
評価方法	受講態度、レクリエーション実技試験、制作した介護用具などで評価する				評価方法	作品提出 及び 実技テスト、筆記テスト			

科目名 家事生活支援技術Ⅱ				授業の種類 演習		授業担当者（実務経験有り） 溝淵 美津子		科目名 介護過程Ⅰ				授業の種類 演習		授業担当者（実務経験有り） 東原 由佳	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修	授業の回数 15	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修								
目的・ねらい	高齢化社会において介護を必要とする高齢者や障害者の食生活のあり方を学習し、その調理技術を習得し、適切に支援できる能力を養う。							目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。						
内容	高齢者や障害者の身体機能状況に合わせた調理実習を体験しながら、食生活の適切な支援ができるよう、知識や調理技術を習得する。							内容	利用者理解を図り、必要な情報収集を行い、情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画する。介護計画の実施・評価する一連の過程を理解する。 自立に沿った一連の介護計画、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。						
到達目標	高齢者の基本的な日常食から病態別に応じた献立作成や適切な食事作りが支援出来るようにする。また、障害者には身体機能状況に適した食事形態を理解し、基本的な障害者食が調達できるようにする。							到達目標	介護過程の理論と実習体験を関連づけ、介護過程を展開することができる。						
授業計画	コマ数	授業内容						授業計画	コマ数	授業内容					
	1	老化が食生活に及ぼす影響を学習し、要介護者が抱える便秘や下痢の解消について適正な調理方法を学ぶ。また、食品の衛生について学習する。							1	介護過程とは ・介護過程の意義 ・目的					
	2	同 上							2	介護過程とは ・介護過程の全体像 ・介護過程とICF					
	3	糖尿病、高血圧症の病態を学習し、適正な献立作成や調理方法を学ぶ。							3	生活支援における介護過程の必要性①					
	4	同 上							4	生活支援における介護過程の必要性②					
	5	骨粗しょう症や貧血の食事療法を学習し、適正な献立や調理方法を学ぶ。							5	介護過程の理解 介護過程の展開					
	6	同 上							6	介護過程の理解 介護過程の展開 アセスメント（情報収集）					
	7	加工食品や保存食品を活用して迅速でバランスのよい食事が調えられる方法を学ぶ。							7	介護過程の理解 介護過程の展開 アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）①					
	8	同 上							8	介護過程の理解 介護過程の展開 アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）②					
	9	咀嚼や嚥下困難を伴う人への食事形態や調理方法を学び、食事介助のポイントも学習する。							9	事例に基づくアセスメントの演習①					
	10	同 上							10	事例に基づくアセスメントの演習②					
	11	高齢者の日常食から嚥下困難な人への食事形態を変化させ、食べやすい調理方法を自主的に考え、調理実習を行うことで一層理解を深める。							11	事例に基づくアセスメントの演習③					
	12	同 上							12	事例に基づくアセスメントの演習④					
	13	高齢者や障害者に適した調理方法が作成できるか各個人で実技試験を実施し、調理技術を再認識させる。							13	介護過程の展開の演習①					
	14	同 上							14	介護過程の展開の演習②					
15	高齢者や障害者に適した調理理論が理解できているか記述試験を実施する。						15	まとめ・試験							
教科書	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版							教科書	最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版						
評価方法	高齢者や障害者の身体機能の状況変化について、症状やそれに伴う献立作成が出来るかレポートさせて評価する。高齢者や障害者に適した調理技術や理論が習得できているか評価する。その上、出席状況、授業態度などで総合的に評価する。							評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する						

科目名		介護過程Ⅱ	授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 東原 由佳	科目名		介護過程Ⅱ	授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 東原 由佳
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修		授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修	
目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。				目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。			
内容	利用者理解を図り、必要な情報収集を行い、情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画する。 介護計画の実施・評価する一連の過程を理解する。 自立に沿った一連の介護計画、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。				内容	利用者理解を図り、必要な情報収集を行い、情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画する。 介護計画の実施・評価する一連の過程を理解する。 自立に沿った一連の介護計画、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。			
到達目標	介護過程の理論と実習体験を関連づけ、介護過程を展開することができる。				到達目標	介護過程の理論と実習体験を関連づけ、介護過程を展開することができる。			
授業計画	コマ数	授業内容			授業計画	コマ数	授業内容		
	1	介護過程の復習①				16	事例に基づく評価方法		
	2	介護過程の復習②				17	事例5		
	3	介護計画の立案				18	事例5		
	4	目標の設定・支援内容・方法				19	事例6		
	5	アセスメントシートⅠ・Ⅱの説明				20	事例6		
	6	アセスメントシートⅠ・Ⅱの記入				21	個別援助計画とケアプランの関係性		
	7	事例1				22	チームアプローチにおける介護福祉士の役割		
	8	事例1				23	1. チームアプローチの意義		
	9	事例2				24	2. チームアプローチの実際(介護過程の焦点から)		
	10	事例2				25	利用者の生活と介護過程の展開 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 事例1・2		
	11	事例3				26	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 事例3・4		
	12	事例3				27	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 事例5・6		
	13	事例4				28	チームアプローチの実際(介護過程の焦点から)		
	14	事例4				29	2. チームアプローチの実際(介護過程の焦点から)		
15	実施に基づく介護福祉士の役割			30	まとめ				
教科書	新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規				教科書	新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規			
評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する				評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する			

科目名		介護過程Ⅲ	授業の種類	授業担当者	(実務経験有り)	科目名	介護過程Ⅲ	授業の種類	授業担当者	(実務経験有り)
			演習	鎌田・東原・平田				演習	鎌田・東原・平田	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択			授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
30	60時間(2単位)	2年 後期	必修			30	60時間(2単位)	2年 後期	必修	
目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。				目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。				
内容	利用者理解を図り、必要な情報収集を行い、情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画する。介護計画の実施・評価する一連の過程を理解させる。自立に沿った介護計画の一連、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。				内容	利用者理解を図り、必要な情報収集を行い、情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画する。介護計画の実施・評価する一連の過程を理解する。自立に沿った一連の介護計画、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。				
到達目標	介護過程の理論と実習体験を関連づけ、介護過程を展開することができる				到達目標	介護過程の理論と実習体験を関連づけ、介護過程を展開することができる。				
授業計画	コマ数	授業内容			授業計画	コマ数	授業内容			
	1	受け持ち利用者記録の見直し				16	発表準備①			
	2	ケーススタディとは 研究におけるケーススタディの位置付け				17	発表準備②			
	3	ケーススタディの計画と実施①				18	ケースレポートの発表①			
	4	ケーススタディの計画と実施②				19	ケースレポートの発表②			
	5	ケーススタディの計画と実施③				20	ケースレポートの発表③			
	6	ケースレポート計画書の作成①				21	ケースレポートの発表まとめ			
	7	ケースレポート計画書の作成②				22	アセスメントシートの説明			
	8	ケースレポート計画書の作成③				23	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用した情報の解釈①			
	9	ケースレポート作成①				24	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用した情報の解釈②			
	10	ケースレポート作成②				25	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用した情報の分析①			
	11	ケースレポート作成③				26	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用した情報の分析②			
	12	ケースレポート作成④				27	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用した課題の抽出①			
	13	ケースレポート作成⑤				28	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用した課題の抽出②			
	14	ケースレポート作成⑥				29	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用したサービス計画書の立案①			
15	ケースレポート作成⑦			30	受け持ち利用者のアセスメントシートを活用したサービス計画書の立案②					
教科書	最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版				教科書	最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版				
評価方法	受講態度・レポート課題等にて評価する				評価方法	受講態度・レポート課題等にて評価する				

科目名 介護総合演習Ⅰ				授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 平田 朋美	科目名 介護総合演習Ⅱ				授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 平田 朋美
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 時間 (1単位)			配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修	授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 時間 (1単位)			配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
目的・ねらい	介護実習に於いて、利用者一人ひとりが持つ尊厳や自立、権利や価値、生活状況に、実際適応できる柔軟性や応用力・判断力と共に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力が求められる。また、利用者や介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことも求められる。様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現する力を養う。					目的・ねらい	介護実習に於いて、利用者一人ひとりが持つ尊厳や自立、権利や価値、生活状況に、実際適応できる柔軟性や応用力・判断力と共に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力が求められる。また、利用者や介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことも求められる。様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現する力を養う。				
内容	実習と組み合わせる学習とする。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の施設等のオリエンテーション、実習後のふりかえりを行う。 実習に必要な知識や技術について、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。					内容	実習と組み合わせる学習とする。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、総合的な対応能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。				
到達目標	利用者との関わり方や施設の概要を知り、介護実習Ⅰの準備ができる。 介護実習Ⅰに向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中に実践力を身につけることができる。					到達目標	介護実習Ⅱに向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 実習終了後は、個々の実習経験を意味付けでき、自己の介護観に向けて総合力を養うことができる。				
授業計画	コマ数	授業内容				授業計画	コマ数	授業内容			
	1	ガイダンス 介護総合演習Ⅰの授業内容についての説明、介護実習Ⅰの実習時期・期間・見学実習について					1	実習Ⅱとは (在宅介護支援実習等の意義と目的)			
	2	介護総合演習の位置づけ、介護総合演習の目的 介護実習の種類、実習Ⅰの目的と主な実習内容					2	介護保険制度における居宅サービス			
	3	実習前の学び 事前学習の内容と方法					3	実習施設の理解①居宅・訪問			
	4	介護実習先、施設についての理解 介護保険について					4	実習施設の理解②小規模多機能型居宅介護			
	5	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設					5	実習施設の理解③グループホーム			
	6	介護実習Ⅰの展開 実習生の心得					6	実習施設の理解④通所介護・通所リハビリテーション			
	7	実習日誌の書き方①					7	実習施設の理解⑤介護付き有料老人ホーム			
	8	実習日誌の書き方②					8	実習準備 1			
	9	実習日誌の書き方③					9	実習準備 2			
	10	実習書類準備					10	実習準備 3			
	11	介護実習施設の発表と事前訪問、事前指導について 目標課題・個人票の作成、実習ファイルの作成					11	実習準備 4			
	12	実習指導者によるオリエンテーション					12	実習準備 5			
	13	事前指導					13	実習指導者によるオリエンテーション			
	14	実習帰校日					14	事前指導			
15	事後指導				15	事後指導					
教科書	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規					教科書	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規				
評価方法	出席・筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する					評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する				

科目名 介護総合演習Ⅲ				授業の種類 演習		授業担当者 (実務経験有り) 東原 由佳		科目名 介護総合演習Ⅳ				授業の種類 演習		授業担当者 (実務経験有り) 東原 由佳	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30時間 (1単位)	1年 後期	必修	15	30時間 (1単位)	2年 前期	必修	15	30時間 (1単位)	2年 前期	必修	15	30時間 (1単位)	2年 前期	必修
目的・ねらい	介護実習に於いて、利用者一人ひとりが持つ尊厳や自立、権利や価値、生活状況に、実際適応できる柔軟性や応用力・判断力と共に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力が求められる。また、利用者や介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことも求められる。様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現する力を養う。							目的・ねらい	介護実習に於いて、利用者一人ひとりが持つ尊厳や自立、権利や価値、生活状況に、実際適応できる柔軟性や応用力・判断力と共に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力が求められる。また、利用者や介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことも求められる。様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現する力を養う。						
内容	実習と組み合わせての学習とする。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、総合的な対応能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。							内容	実習と組み合わせての学習とする。実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。						
到達目標	介護実習Ⅲに向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 実習終了後は、個々の実習経験を意味付けでき、自己の介護観に向けて総合力を養うことができる。							到達目標	介護実習Ⅳに向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 実習終了後は、個々の実習経験を意味付けでき、自己の介護観に向けて総合力を養うことができる。						
授業計画	コマ数	授業内容						コマ数	授業内容						
	1	介護実習Ⅱの振り返り 介護実習Ⅲとは (入所実習の意義と目的)						1	介護実習Ⅱ・Ⅲの振り返り及び介護実習Ⅳに向けての取り組み方						
	2	介護実習施設についての理解 ①障害者支援施設						2	実習施設の理解						
	3	介護実習施設についての理解 ①障害者支援施設						3	実習施設の理解						
	4	介護実習施設についての理解 ②医療型障害児入所施設						4	実習施設の理解						
	5	介護実習施設についての理解 ③救護施設						5	実習準備 (実技の復習)						
	6	実習準備 (実技の復習)						6	実習準備 (実技の復習)						
	7	実習準備 (実技の復習)						7	実習準備 (目標課題の作成) (個人票の作成)						
	8	実習準備 (実技の復習)						8	実習準備 (ファイル作成) (目標課題の作成) (個人票の作成)						
	9	実習準備 (目標課題の作成) (個人票の作成)						9	実習準備 (実技の復習)						
	10	実習準備 (ファイル作成)						10	実習準備 (実技の復習)						
	11	事前指導						11	事前指導						
	12	事前指導						12	事前指導						
	13	帰校日						13	帰校日						
	14	事後指導						14	事後指導						
15	事後指導						15	事後指導							
教科書	最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版							教科書	最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版						
評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する							評価方法	筆記試験・受講態度・レポート課題等にて評価する						

科目名		介護総合演習Ⅴ		授業の種類	演習	授業担当者	(実務経験有り)	東原 由佳	科目名	国家試験対策(介護)		授業の種類	講義	授業担当者	(実務経験有り)	鎌田 綱、東原 由佳、坂井 明美、平田 朋美	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択					授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択				
15	30時間(1単位)	2年 後期		必修					15	30時間(2単位)	1年		必修				
目的・ねらい	介護実習の体験を基盤として、社会へ出て介護福祉士として仕事をする時に、発生する問題の解決への道筋をどのようにつけていけばよいのかを学ぶ。 様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することを学ぶ。								目的・ねらい	介護福祉士国家試験の「介護」領域において、試験対策講義及び過去問題、模擬問題を中心とした演習を行い、合格に達する知識を身につける。							
内容	連絡・報告・相談・討議の重要性について理解を深める。 カンファレンスの進め方やグループディスカッションの方法を体験する。 実習中の出来事をロールプレイしたり、討議を行なうことにより、どのような介護福祉士になりたいか、介護福祉士としてどうあるべきか介護をどのように捉えるかなどを考え、自己の介護観の確立を図る。								内容	国家試験において、特に頻出する分野を丁寧に解説する。そして、過去問題、模擬問題を実施し、間違えやすいポイントについて説明する。							
到達目標	実習体験を通して、自己の介護観を自覚することができる。 介護実習の体験から、問題解決について理解を深め、有意義な介護経験に発展できる。								到達目標	国家試験での合格ライン到達に必要なとされる知識を修得する。							
授業計画	1	介護研究とは							授業計画	1	対策講義(介護の基本①)						
	2	研究内容の検討								2	対策講義(介護の基本②)						
	3	研究計画書の作成方法・実施方法の説明								3	対策講義(介護の基本③)						
	4	研究計画書の作成方法①								4	対策講義(コミュニケーション技術)						
	5	研究計画書の作成方法②								5	対策講義(生活支援技術①)						
	6	研究の実施①								6	対策講義(生活支援技術②)						
	7	研究の実施②								7	対策講義(生活支援技術③)						
	8	研究の実施③								8	対策講義(介護過程①)						
	9	研究の実施④								9	対策講義(介護過程②)						
	10	研究の実施⑤								10	過去問題演習①						
	11	研究の実施⑥								11	過去問題演習②						
	12	分析・評価③								12	過去問題演習③						
	13	分析・評価④								13	模擬問題演習①						
	14	研究のまとめ								14	模擬問題演習②						
	15	発表								15	模擬問題演習③						
教科書									教科書	介護福祉士国家試験受験ワークブック・過去問題集等							
評価方法	受講態度・研究内容等にて評価する								評価方法	受講への取り組み、姿勢により評価							

科目名 介護実習Ⅰ				授業の種類 実習	授業担当者 (実務経験有り) 東原・平田・鎌田・坂井		科目名 介護実習Ⅱ・Ⅲ				授業の種類 実習	授業担当者 (実務経験有り) 東原・平田・鎌田・坂井	
授業の回数	時間数 (単位数)		配当学年・時期	必修・選択			授業の回数	時間数 (単位数)		配当学年・時期	必修・選択		
	80時間 (介護実習合計10単位)		1年	必修				Ⅱ 90時間・Ⅲ 120時間 (介護実習合計10単位)		1年	必修		
目的・ねらい	①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						目的・ねらい	①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。					
内容	実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。						内容	実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。 施設利用者の個別援助としての介護技術を学び、実践する。(介護実習Ⅲ) 多職種共同や連携について学ぶ。 在宅サービスを中心に様々な介護のあり方を体験する。					
到達目標	人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。						内容	実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。 施設利用者の個別援助としての介護技術を学び、実践する。(介護実習Ⅲ) 多職種共同や連携について学ぶ。 在宅サービスを中心に様々な介護のあり方を体験する。					
実習Ⅰ	実習施設事業等 (Ⅰ) 実習Ⅰ (導入・見学実習)						到達目標	人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を具体的に習得する。					
	・ 特別養護老人ホーム		10日間	}	}	}		実習施設事業等 (Ⅰ)					
・ 介護老人保健施設		実習Ⅱ (在宅介護支援実習)					} 27日間						
		}		・ 訪問介護				} 2日間	} 12日間				
				・ 小規模多機能型施設						} 3日間			
		}	・ デイサービスセンター	} 5日間	} 2日間								
			・ グループホーム										
		}	・ 介護付有料老人ホーム	} 15日間	}								
			実習Ⅲ (入所施設実習)										
		}	・ 特別養護老人ホーム	} 2日間	}								
			・ 介護老人保健施設										
		}	・ 障害者支援施設	} 3日間	}								
			・ 医療型障害児入所施設										
		}	・ 救護施設	} 5日間	}								
教科書							教科書						
評価方法	在宅介護実習は、実習日数及び実習時間、介護実習記録等により認定する。入所介護実習は、実習日数及び実習時間、介護実習記録、施設評価により評価する。						評価方法	実習Ⅱの在宅介護実習は、実習日数及び実習時間、介護実習記録等により認定する。また、グループホームは実習日数及び実習時間、介護実習記録、施設評価により評価する。 実習Ⅲの入所介護実習は、実習日数及び実習時間、介護実習記録、施設評価により評価する。					

科目名 介護実習Ⅳ		授業の種類 実習	授業担当者 (実務経験有り) 東原・平田・鎌田・坂井
授業の回数	時間数(単位数) 160時間(介護実習合計10単位)	配当学年・時期 2年	必修・選択 必修
目的・ねらい	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p>		
内容	<p>介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な他の職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解させる。「介護過程」で学んだ思考のプロセスを実際の利用者を受け持つことにより実践する。</p>		
到達目標	<p>個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面で介護過程の展開能力を身につける。利用者や実習指導者を始めとした介護職員と相談しながら、立案した介護計画に基づいた介護を提供し、自ら行った介護実践の評価や計画の修正が行えるようになる。</p>		
実習Ⅳ	<p>実習施設事業等(Ⅱ) 実習Ⅳ(介護過程展開実習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム ・介護老人保健施設 ・障害者支援施設 ・救護施設 <p style="text-align: right;">} 20日間</p>		
教科書			
評価方法	<p>実習Ⅳの入所介護実習は、実習日数及び実習時間、介護実習記録、施設評価により評価する。</p>		

科目名 発達と老化の理解 I				授業の種類 講義		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美		科目名 発達と老化の理解 II				授業の種類 講義		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
1回	30時間 (2単位)	1年・前期	必修	1回	30時間 (2単位)	1年・後期	必修	1回	30時間 (2単位)	1年・後期	必修	1回	30時間 (2単位)	1年・後期	必修
目的・ねらい	発達の観点からの老化を理解する。 老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。							目的・ねらい	介護福祉士として対象者を心身ともに理解し関わられるよう、高齢者に多い症状・疾患を理解する。						
内容	誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟の理解 生理的变化を、自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージ化する 高齢者の気持ちについて深く理解する							内容	①高齢者に多い症状と日常生活における留意点 ②高齢者に多い疾患と日常生活における留意点						
到達目標	高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアができる 高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解する							到達目標	①高齢者に多い症状と日常生活における留意点が理解できる ②高齢者に多い疾患と日常生活における留意点が理解できる						
授業計画	コマ数	授業内容													
	1	人間の成長と発達 発達とは													
	2	発達の定義①													
	3	発達の定義②													
	4	発達の定義③													
	5	発達段階と発達課題①													
	6	発達段階と発達課題②													
	7	発達段階と発達課題③													
	8	老化とは何か①													
	9	老化とは何か②													
	10	老化に伴う身体的・精神的変化①													
	11	老化に伴う身体的・精神的変化②													
	12	老化に伴う身体的・精神的変化③													
	13	高齢者の心理的問題①													
	14	高齢者の心理的問題②													
15	まとめ・試験														
教科書	「最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」 中央法規出版							教科書	最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版						
評価方法	筆記試験と受講態度・レポート課題等にて評価する							評価方法	筆記試験と受講態度・レポート課題等にて評価する						

科目名 認知症の理解Ⅰ				授業の種類 講義		授業担当者（実務経験有り） 中岡 勉		科目名 認知症の理解Ⅱ				授業の種類 講義		授業担当者（実務経験有り） 東原 由佳	
授業の回数 15	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修	授業の回数 15	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修								
目的・ねらい	認知症という病気に関する基礎を学ぶ事で発症した人の内面を理解し、その生活の在り方を学ぶ							目的・ねらい	認知症の人の暮らしやその家族への支援について理解でき、その人にあった必要な支援を考える事ができるようにする						
内容	認知症の医学的知識を学ぶ 認知症の人の心理的理解を深める 認知症の人の生活の捉え方を学ぶ							内容	認知症の人を取り巻く環境を理解する 認知症の人の生活支援の実践を考える						
到達目標	認知症という病気や発症した人の内面について理解した上で、その生活の在り方を考えることができる							到達目標	認知症の人の暮らしやその家族への支援について理解し、その人にあった必要な支援を考える事ができるようにする						
授業計画	コマ数	授業内容						授業計画	コマ数	授業内容					
	1	認知症を取り巻く状況～認知症ケアのこれまでとこれから～ 1. 認知症とは何か							1	認知症ケアの実際 ・パーソンセンタードケア					
	2	2. 認知症ケアの歴史							2	認知症ケアの実際 ・認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール					
	3	3. 認知症ケアの理念と視点							3	認知症ケアの実際 ・認知症の人とのコミュニケーション①					
	4	認知症の人の医学・行動・心理的理解 1. 認知症の人の行動・心理症状							4	認知症ケアの実際 ・認知症の人とのコミュニケーション②					
	5	2. 脳のしくみ							5	認知症ケアの実際 ・認知症の人へのケア①					
	6	3. 認知症の原因疾患							6	認知症ケアの実際 ・認知症の人へのケア②					
	7	4. 認知症の診断と治療							7	認知症ケアの実際 ・認知症の人へのさまざまなアプローチ					
	8	5. 認知症の予防・心理的理解							8	認知症ケアの実際 ・認知症の人の終末期医療と介護					
	9	認知症の人の体験の理解 1. 認知症の人の介護をしていくために							9	認知症ケアの実際 ・環境づくり					
	10	2. 認知症の人の体験・本人本位の視点を確かなものに							10	介護者支援 ・家族への支援					
	11	認知症の人の生活理解 1. 認知機能の変化が生活に及ぼす影響							11	介護者支援 ・介護福祉職への支援					
	12	2. 環境の力							12	認知症の人の地域生活支援 ・制度、サービス、機関、地域づくり①					
	13	3. 生活を続ける							13	認知症の人の地域生活支援 ・制度、サービス、機関、地域づくり②					
	14	4. 若年性認知症の人の生活理解と支援							14	認知症の人の地域生活支援 ・多職種連携と協働					
15	まとめ・試験						15	まとめ・試験							
教科書	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規出版							教科書	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規出版						
評価方法	筆記試験と受講態度、レポート提出による							評価方法	筆記試験と受講態度、レポート提出による						

科目名	障害の理解	授業の種類 講義	授業担当者 (実務経験有り) 東原 由佳
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
目的・ねらい	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 障害のある人の体験を理解する。リハビリテーションの概念・理念を学び、対象者援助に役立てる。 本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。		
内容	障害の概念や障害者福祉の基本理念、身体、精神、知的・発達障害、難病について学ぶ。 症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解する。 障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得させる。		
到達目標	障害のある人の特性をふまえたアセスメントができる。また自立に向けた支援ができる。 リハビリテーション概念・理念を理解する。 地域におけるサポート体制や他職種協働のあり方、家族への支援ができる。		
授業計画	コマ数	授業内容	
	1	障害の概念と障害者福祉の基本理念	
	2	障害のある人の生活の理解Ⅰ 視覚障害のある人の生活	
	3	聴覚・言語障害のある人の生活	
	4	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活	
	5	障害のある人の生活の理解Ⅱ 知的障害のある人の生活	
	6	精神障害のある人の生活	
	7	重症心身障害のある人の生活	
	8	高次脳機能障害のある人の生活	
	9	発達障害・難病のある人の生活	
	10	内部障害のある人の生活	
	11	1・呼吸・腎臓障害のある人の生活①	
	12	2・呼吸・腎臓障害のある人の生活②	
	13	3・ヒト免疫不全ウイルス・肝機能障害のある人の生活	
	14	4.膀胱・直腸機能障害のある人の生活	
15	5・心臓機能障害のある人の生活		
15	まとめ・試験		
教科書	最新介護福祉全書14 こころとからだのしくみ 障害の理解 中央法規		
評価方法	筆記試験と受講態度にて評価する		

科目名 こころとからだのしくみ I				授業の種類 演習		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美		科目名 こころとからだのしくみ I				授業の種類 演習		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美	
授業の回数 3回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		授業の回数 3回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修					
目的・ねらい	介護実践に必要な知識という観点から、からだこころのしくみについての知識を養う。 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する。 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面についての配慮について理解する。						目的・ねらい	介護実践に必要な知識という観点から、からだこころのしくみについての知識を養う。 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する。 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面についての配慮について理解する。							
内容	人体の構造と機能：解剖・生理 こころのしくみの理解 臓器主要疾患						内容	移動・食事に関連したしくみ 身じたくに関連したしくみ							
到達目標	人間のこころとからだのしくみを理解できる						到達目標	人間のこころとからだのしくみを理解できる							
授業計画	コマ数	授業内容					授業計画	コマ数	授業内容						
	1	人体の構造と機能：解剖・生理① からだのしくみを理解する						16	移動に関連したこころとからだの基礎知識						
	2	人体の構造と機能：解剖・生理② からだのしくみを理解する						17	移動に関連したこころとからだの基礎知識						
	3	人体の構造と機能：解剖・生理③ からだのしくみを理解する						18	移動に関連したこころとからだのしくみ						
	4	人体の構造と機能：解剖・生理④ からだのしくみを理解する						19	移動に関連したこころとからだのしくみ						
	5	人体の構造と機能：解剖・生理⑥ からだのしくみを理解する						20	身じたくに関連したこころとからだの基礎知識						
	6	人体の構造と機能：解剖・生理⑦ からだのしくみを理解する						21	身じたくに関連したこころとからだの基礎知識						
	7	人体の構造と機能：解剖・生理⑧ からだのしくみを理解する						22	身じたくに関連したこころとからだのしくみ						
	8	生命を維持するしくみ						23	身じたくに関連したこころとからだのしくみ						
	9	人間の欲求とは						24	身じたくに関連したこころとからだのしくみ (演習)						
	10	自己実現と尊厳						25	身じたくに関連したこころとからだのしくみ (演習)						
	11	こころのしくみを理解する こころのしくみの基礎						26	食事に関連したこころとからだの基礎知識						
	12	こころのしくみの基礎 (学習・感情・意欲のしくみ)						27	食事に関連したこころとからだの基礎知識						
	13	こころのしくみの基礎 (意欲・動機づけのしくみ)						28	食事に関連したこころとからだのしくみ						
	14	こころのしくみの基礎 (適応のしくみ)						29	食事に関連したこころとからだのしくみ						
15	まとめ					30	まとめ・試験								
教科書	最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規						教科書	最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規							
評価方法	筆記試験と受講態度にて評価する						評価方法	筆記試験及び受講態度にて評価する							

科目名		授業の種類		授業担当者		科目名		授業の種類		授業担当者	
こころとからだのしくみⅡ		演習		(実務経験有り) 坂井 明美		こころとからだのしくみⅢ		演習		(実務経験有り) 坂井 明美	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択				
15	30時間(1単位)	1年 後期	必修	15	30時間(1単位)	2年 前期	必修				
目的・ねらい	介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養う。 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する。 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面についての配慮について理解する。			目的・ねらい	介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養う。 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する。 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面についての配慮について理解する。						
内容	身じたくに関連したしくみ 入浴、排泄に関連したしくみ			内容	睡眠に関連したしくみ 人の死をどのように捉えるか						
到達目標	人間のこころとからだのしくみを理解できる			到達目標	人間のこころとからだのしくみを理解できる						
授業計画	コマ数	授業内容		授業計画	コマ数	授業内容					
	1	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識			1	睡眠に関連する基礎知識					
	2	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識			2	睡眠に関連する基礎知識					
	3	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識			3	睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
	4	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ			4	睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
	5	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ			5	睡眠に関連したこころとからだのしくみ					
	6	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ			6	機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響					
	7	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ			7	死のとらえ方					
	8	排泄に関連したこころとからだの基礎知識			8	終末期から危篤時・死亡時のからだの理解					
	9	排泄に関連したこころとからだの基礎知識			9	終末期から危篤時・死亡時のからだの理解					
	10	排泄に関連したこころとからだの基礎知識			10	終末期から危篤時・死亡時のからだの理解					
	11	排泄に関連したこころとからだのしくみ			11	死に対するこころの理解					
	12	排泄に関連したこころとからだのしくみ			12	死に対するこころの理解					
	13	排泄に関連したこころとからだのしくみ			13	医療職との連携					
	14	排泄に関連したこころとからだのしくみ			14	まとめ					
15	まとめ・試験		15	試験							
教科書	最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規			教科書	最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規						
評価方法	筆記試験と受講態度にて評価する			評価方法	筆記試験と受講態度で評価する						

科目名	国家試験対策（こころとからだのしくみ）	授業の種類 講義	授業担当者 （実務経験有り） 鎌田、東原、坂井、平田
授業の回数 15	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
目的・ねらい	介護福祉士国家試験の「こころとからだのしくみ」領域において、試験対策講義及び過去問題、模擬問題を中心とした演習を行い、合格に達する知識を身につける。		
内容	国家試験において、特に頻出する分野を丁寧に解説する。そして、過去問題、模擬問題を実施し、間違えやすいポイントについて説明する。		
到達目標	国家試験での合格ライン到達に必要なとされる知識を修得する。		
授業計画	コマ数	授業内容	
	1	対策講義（発達と老化の理解①）	
	2	対策講義（発達と老化の理解②）	
	3	対策講義（認知症の理解①）	
	4	対策講義（認知症の理解②）	
	5	対策講義（障害の理解）	
	6	対策講義（こころとからだのしくみ①）	
	7	対策講義（こころとからだのしくみ②）	
	8	対策講義（こころとからだのしくみ③）	
	9	対策講義（医療的ケア①）	
	10	対策講義（医療的ケア②）	
	11	過去問題演習①	
	12	過去問題演習②	
	13	模擬問題演習①	
	14	模擬問題演習②	
15	模擬問題演習③		
教科書	介護福祉士国家試験受験ワークブック・過去問題集等		
評価方法	受講への取り組み、姿勢により評価		

科目名		医療的ケア概論		授業の種類 講義		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美		科目名		医療的ケア概論		授業の種類 講義		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美			
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択		授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択		授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
45	90時間(3単位)	1年 後期、2年前期		必修		45	90時間(3単位)	1年 後期、2年前期		必修		45	90時間(3単位)	1年 後期、2年前期		必修	
目的・ねらい	201年の「社会福祉士及び介護福祉士法」改正に伴い、201年4月1日より介護福祉士が医療的ケア(痰の吸引・経管栄養)を業とすることが認められた。そこで、本授業では医療的ケアを理解し安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。						目的・ねらい	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
内容	①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③経管栄養(基礎的知識・実施手順)						内容	①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③経管栄養(基礎的知識・実施手順) ④演習									
到達目標	①個人の尊厳と自立について理解し、利用者の尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる ②安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性や清潔保持、感染予防について説明できる ③喀痰吸引が必要な状態、経管栄養の技術と実施上の留意点が説明できる ④吸引の技術と留意点、経管栄養の技術と留意点が説明でき、報告及び記録内容が説明できる						到達目標	①個人の尊厳と自立について理解し、利用者との尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる ②安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性や清潔保持、感染予防について説明できる ③喀痰吸引が必要な状態、経管栄養の技術と実施上の留意点が説明できる ④吸引の技術と留意点、経管栄養の技術と留意点が説明でき、報告及び記録内容が説明できる									
授業計画	コマ数	授業内容						コマ数	授業内容								
	1	医療的ケアとは						16	呼吸のしくみとはたらき								
	2	医療行為とは						17	いつもと違う呼吸状態								
	3	喀痰吸引等制度						18	喀痰吸引とは								
	4	医療的ケアを実施できる条件						19	喀痰吸引とは								
	5	医療的ケアと喀痰吸引等の背景						20	人工呼吸器と吸引 子どもの吸引について								
	6	その他の制度						21	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意								
	7	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施						22	呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)								
	8	救急蘇生						23	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認								
	9	感染予防						24	急変・事故発生時の対応と事前対策								
	10	介護職員の感染予防						25	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持								
	11	療養環境の清潔、消毒法						26	吸引の技術と留意点								
	12	減菌と消毒						27	喀痰の技術の留意点								
	13	身体・精神の健康						28	喀痰の技術の留意点								
	14	健康状態を知る項目(バイタルサイン)、急変状態						29	喀痰の技術の留意点								
15	試験						30	喀痰吸引に伴うケア 報告および記録									
教科書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版						教科書	最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版									
評価方法	筆記試験、受講態度、レポート課題等にて評価する						評価方法	筆記試験、受講態度、レポート課題等で評価する									

科目名		医療的ケア概論		授業の種類 講義		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美		科目名		医療的ケア演習		授業の種類 演習		授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択		授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択					
45	90時間(3単位)	1年 後期、2年前期		必修		15	60時間(2単位)	2年後期		必修					
目的・ねらい	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。						目的・ねらい	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。							
内容	①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③経管栄養(基礎的知識・実施手順) ④演習 救急蘇生法						内容	①喀痰吸引 ②経管栄養							
到達目標	①個人の尊厳と自立について理解し、利用者との尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる ②安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性や清潔保持、感染予防について説明できる ③喀痰吸引が必要な状態、経管栄養が必要な状態を説明できる ④基本的な救急蘇生法が実施できる ⑤吸引の技術と留意点、経管栄養の技術と留意点が説明でき、報告及び記録内容が説明できる						到達目標	①喀痰吸引をシュミレーターを用いて、効果的に演習でき1人で実施できる ②経管栄養をシュミレーターを用いて、効果的に演習でき1人で実施できる							
授業計画	コマ数	授業内容						コマ数	授業内容						
	31	消化器系のしくみとはたらき 消化・吸収とよくある消化器の症状						1	演習 鼻腔内吸引						
	32	経管栄養とは						2	演習 鼻腔内吸引						
	33	注入する内容に関する知識						3	演習 鼻腔内吸引						
	34	経管栄養実施上の留意点						4	演習 鼻腔内吸引						
	35	子どもの経管栄養について 経管栄養に関する感染と予防						5	演習 鼻腔内吸引						
	36	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意						6	演習 鼻腔内吸引						
	37	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策						7	演習 口腔内吸引						
	38	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持						8	演習 口腔内吸引						
	39	経管栄養の技術と留意点						9	演習 口腔内吸引						
	40	経管栄養の技術と留意点						10	演習 口腔内吸引						
	41	経管栄養の技術と留意点						11	演習 口腔内吸引						
	42	経管栄養に必要なケア 報告及び記録						12	演習 口腔内吸引						
	43	演習 救急蘇生法						13	演習 気管カニューレ内部吸引						
	44	演習 救急蘇生法						14	演習 気管カニューレ内部吸引						
45	まとめ・試験						15	演習 気管カニューレ内部吸引							
教科書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版						教科書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版							
評価方法	筆記試験、受講態度、レポート課題等で評価する						評価方法	演習を5回行い、5回目が手順通りにできる(評価表の全ての項目)							

科目名	医療的ケア演習	授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験有り) 坂井 明美
授業の回数 15	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
目的・ねらい	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。		
内容	①喀痰吸引 ②経管栄養		
到達目標	①喀痰吸引をシュミレーターを用いて、効果的に演習でき1人で実施できる ②経管栄養をシュミレーターを用いて、効果的に演習でき1人で実施できる		
授業計画	コマ数	授業内容	
	16	演習 気管カニューレ内部吸引	
	17	演習 気管カニューレ内部吸引	
	18	演習 気管カニューレ内部吸引	
	19	演習 胃ろう経管栄養	
	20	演習 胃ろう経管栄養	
	21	演習 胃ろう経管栄養	
	22	演習 胃ろう経管栄養	
	23	演習 胃ろう経管栄養	
	24	演習 胃ろう経管栄養	
	25	演習 経鼻経管栄養	
	26	演習 経鼻経管栄養	
	27	演習 経鼻経管栄養	
	28	演習 経鼻経管栄養	
29	演習 経鼻経管栄養		
30	演習 経鼻経管栄養		
教科書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版		
評価方法	演習を5回行い、5回目が手順通りにできる(評価表の全ての項目)		